1歳6カ月児の言語習得からみた母子相互作用

畠　山　富　而（(財)総合花巻病院小児科）

はじめに

岩手県の山村，農村，都市近郊，都市，さらに団地の各地域において"育児について"アンケートによる意識調査を行い，さらに都市近郊において，２０代，３０代，４０代，５０代の年代別調査を行い，わづか２０～３０年間に育児意識が大きく変貌し，地域によっては育児上好ましくない状況も生じていることが明らかとなった。（一部，昭和５６年度報告書）

研究目的

上記のような背景から社会変貌と育児との関係の一端を知る目的のため，１歳６カ月児を対象に，その時点における言語習得と広義の母子相互作用を，主として遊び相手との関連の中で調査したので予報として報告する。

調査地域・対象

岩手県石鳥谷町（都市近郊），県の中央部にあり民度も高く，近年，急速に企業誘地が行われ半商半農の地域でありながら共働きが５０％を超えている。同県安代町（山間の町），奥羽山系山麓に位置し，２～３年凶作に襲われ，出稼ぎが多い。

対象児：石鳥谷町９７名，安代町５７名，合計１５４名である。なお，身体発育９７パーセンタイル以上，３パーセンタイル以下，頭囲2.5ＳＤ以下，その他，特別の疾患を有するもの，さらに語彙に極端な片寄りのあるもの（例えば自動車の名前のみなど）を除外した。

調査方法

予め，１歳６カ月健康診査時点において１日の生活状況，遊び相手などを聴取することを連絡しておき，その上で，健康診査と言語習得調査を調査用紙１*，２に従い当日，前者については，筆者，後者については，特定の保健婦が行った。言彙の確認は必ずしも十分ではなかったが，田口恒夫，笹沼澄子共著"ことばのテストえほん"により可能な範囲の確認を行った。言彙の記入は有意単語のみとし，友響言語は除外した。しかし消略語などは有効と判定した。遊び相手については，時間を３０分単位で記入した。遊びの内容の詳細は調査経過中に断念せざるを得なかった。

調査結果

言語習得数から，この年齢時点において分類することは危険であるが，あえてＡ，１～５語，Ｂ，６～１０語，Ｃ，１１～２０語，Ｄ，２０語以上と区分し検討した。また，言語内容には，家族に関係する言葉，食事に関係する言葉，自分の身体に関係する言葉，場所，遊びの対象に関係する言葉など分類して検討を加えなければならないが今回は総数で示した。

1）都市近郊（石鳥谷町）について

・言語習得数と養育者状況は表1.に示すごとく，主養育とＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄの各グループ間に大差は認められず母親６０％前後，祖母３０～４０％であった。しかし，言葉の少ないＡ，Ｂグループが他人１０％，８％とやや高率を示した。この場合の他人は乳幼児保育所が大部分であった。共働き，母の職業の有無との関連は差を認めなかった。

・言語習得数と遊び相手と時間の関係を表２で見ると，母（父）親との遊び時間の多い幼児ほど言語習得数が多く，祖母（父）との遊び時間には差が認められず，兄弟姉妹との遊び時間ではＡグループが，他グループの１／２の時間であった。一人遊びとＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，各グループとの関連は予想されたところであるが，各々１６４分，137分，８４分，３９分と最も相関があり一人遊びの少ない児ほど言語習得が多い傾向を示した。テレビを見る時間との関連も一人遊びと同様の傾向があった。

・言語習得数と一人遊びの際の内容を表３で見ると，言語の多いグループは，人形，縫いぐるみとの遊びが多く，言葉の少ないグループでは，水遊び，次いで自動車遊びが多かった。ブロック遊びには差を認めなかった。

絵本の内容では，言葉の多いグループは動物に

対する関心が強いことを示した。乗物では差を認めなかった。

・習癖（指しゃぶり，布切に対する執着，愛着など）との関連，言葉の少ないグループほど習癖の頻度が高い傾向を示しA＝５０％である。

都市近郊（石鳥谷町）の１歳６カ月児の一人平均言語習得数１３.６であった。

2. 山間の町（安代町）について

・言語習得数と養育者状況を表４でみると，母(父)親養育は５０％代でA，B，C，Dの各グループ間に差は認められず，祖母（父）はC，Dグループはやや少ない傾向を示した。特記すべきは，言語習得数の最も多いDグループに，他人１８％も認められたことであり，この場合の他人は，同年齢ないし幼児を育てている部落の婦人または，近所の仲間の家に日中，児を預けており，都市近郊における他人とは全く異った状態であった。共働き，母の職業の有無などにグループ間に差を認めなかった。農業に従事する母親は各グループとも２０～３０％認められた。

・言語習得数と遊び相手と時間の関係を表５で見ると，都市近郊と類似の傾向が認められた。すなわち，母（父）親との遊び時間の多い児ほど言語習得数が多く，一人遊びの時間の多い児ほど言語数が少なかった。しかし，多少異っていたのは，祖母（父）との遊びの時間において，時間の多いものほど言語数が多い傾向を示し，兄弟姉妹との遊びの関係では，時間の長いものほど言語数が少い状況であり，テレビ時間との関係も同様の傾向であった。

・言語習得数と一人遊びの際のオモチャの内容を表６で見ると都市近郊との比較では１部を除き異った状況を示していた。言葉の多いグループは，人形遊びが多いのは同じ傾向であり，言葉の少ないグループは水遊びが多いのも類似していたが，縫いぐるみ，ブロック遊び，自動車の各遊びでは，Dグループのみ関連が推測された。

絵本の内容では，都市近郊のような関連性は認められなかったが，例数は少ないが生活用具との関連も多少意味を有するのかもしれない。

・習癖との関連．言葉の最も少いAグループが約３０％と高頻度を示した。

山間の町（安代町）の１歳６カ月児の一人平均言語習得数１０.４であった。

考　　察

１歳６カ月時点をとらえて健康診査と言語習得状況を広義の母子相互作用の立場から主として遊びの時間を中心に，都市近郊と山間の町において調査を行った。しかし，この調査においては遊び相手と児との間の遊びの内容の十分な把握ができず中途はんぱに終ってしまった。しかも，各表にも示したごとく遊び時間は変動係数が大であり，そのままの状態では相関を明かにすることは無理であった。この調査結果から推論することが許されるならば，そして，この時点における言語習得は，胎児期，新生児期，乳児期の広義の母子相互作用の基盤が重大な影響をおよぼしているものと推察されるが，あえて，この調査から傾向を導くとすれば，両地区とも，①共働き，農業従事は，特別，言語習得には関連がなさそうである。②主養育者との関連も含めて言語習得数と遊び相手との関係では，両地区とも母親（父）との遊びの時間数は言語習得に相関し，一人遊び，テレビ時間の多いものは言語習得が少ない傾向を示している。祖母（父）との遊びの関連では山間の町で長時間のものは言語習得が多いが，都市近郊では一定の傾向は認められない。兄弟姉妹との遊びの関連では一定の傾向は認められなかった。③言語習得数と一人遊びの際の内容では，遊びのオモチャでは，言語習得の多いグループに人形，縫いぐるみの各遊びが多く，言語習得の少ないグループに水遊び，ついで自動車遊びが多い傾向を示した。絵本の内容では，都市近郊と山間の町で多少異った状況を示したが，都市近郊では，言語習得の多いグループが動物を好む傾向を示した。最も興味を引いたのは習癖と言語習得数との関連であり，言語習得の少いグループは習癖の頻度が高率で都市近郊，山間の町５０～３０％を示した。

以上の結果は予想されたものとほぼ一致しているが，今後，言語習得の発達経過も十分考慮し，遊びの相手と内容を加えることにより広義の母子相互作用と言語習得の関連を明らかにしてゆかなければならない。

1歳6カ月児言語習得調査用紙

名　前　　共働き　　はい　　いいえ

・主養育者：母、　祖母（曾祖母）　その他

・母親の職業：あり（　　）なし、　内職（内容　　）　農業

出勤時間　　帰宅時間　　（内職時間　　）

・父親の職業：（　　）

出勤時間　　帰宅時間

・子どもの1日の生活時間、とくに遊びの詳細な記入、遊び相手を明記。

（起きる時間、朝食、家の中、外での遊び、テレビ、オヤツ、昼食、ひるね、夕食、就寝など、30分間隔程度で記入する。）

午前 5:00　6:00　7:00　8:00　午前 9:00

午前 9:00　10:00　11:00　正午 12:00

正午　1:00　2:00　午後 3:00

午後 3:00　4:00　5:00　午後 6:00

午後 6:00　7:00　8:00　午後 9:00

有意単語のすべてを記入する。（反響言語は記入しない）

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

・一人遊びの際の好きなオモチャ、人形、縫ぐるみ、動物、ブロック遊び、電話遊び、自動車（種類　　）、水遊び

・特別なくせ：指しゃぶり、　タオルを持って寝る、　その他（　　）

・哺乳ビン使用　あり、　なし

表1

言語習得数と養育者状況

（郡市近郊）

養育者状況 ＼ 言語習得（歳）	対象数（男/女）	主養育者 母 %	祖母 %	他人 %	共働き %	母の職業 %	農業 %
A　1～5（3.2 ± 1.5）	10（6／4）	60	30	10	30	30	10
B　6～10（8.0 ± 1.6）	24（15／9）	54	38	8	42	42	4
C　11～20（14.9 ± 2.7）	43（18／25）	56	42	2	44	42	12
D　20以上（22.8 ± 2.9）	20（5／15）	65	30	5	35	35	15

表2

言語習得数と遊び相手と時間

（都市近郊）

遊び相手 / 言語習得(数)	遊び相手と時間（分）				
	母（父）親	祖母（父）	兄弟姉妹	一人	テレビ
A 1～5	86 ± 32 (N＝6)	140 ± 92 (N＝6)	51 ± 60 (N＝25)	164 ± 68 (N＝7)	114 ± 56 (N＝9)
B 6～10	81 ± 40 (N＝19)	135 ± 64 (N＝14)	114 ± 80 (N＝14)	137 ± 68 (N＝19)	89 ± 48 (N＝20)
C 11～20	110 ± 68 (N＝35)	166 ± 75 (N＝31)	96 ± 44 (N＝11)	84 ± 33 (N＝26)	47 ± 23 (N＝30)
D 20以上	171 ± 82 (N＝14)	115 ± 73 (N＝12)	99 ± 36 (N＝13)	39 ± 15 (N＝7)	38 ± 14 (N＝15)

表3

言語習得数と一人遊びの際の内容

（都市近郊）

遊びの内容 / 言語習得(数)	遊びのオモチャ					絵本の内容			習字	哺乳ビン使用
	人形 %	編いぐるみ %	ブロック %	自動車 %	水遊び %	動物 %	乗物 %	生活用具 %	%	%
A 1～5	0	0	30	50	60	0	20	2	50	50
B 6～10	0	17	38	75	42	0	45	3	25	50
C 11～20	32	44	16	37	19	65	19	5	16	26
D 20以上	35	70	40	30	5	75	20	7	5	5

表4

言語習得数と養育者状況

（山間町）

養育者状況 / 言語習得(数)	対象数 (男/女)	主養育者			共働き %	母の職業 %	農業 %
		母 %	祖母 %	他人 %			
A 1～5 (2.7 ± 1.6)	14 (8／6)	50	50	0	43	43	21
B 6～10 (8.4 ± 1.2)	22 (11／11)	41	59	0	41	41	23
C 11～20 (12.7 ± 2.9)	10 (5／5)	70	30	0	30	30	20
D 20以上 (22.1 ± 1.2)	11 (3／8)	55	27	18	45	45	27

表5

言語習得数と遊び相手と時間

（山間町）

遊び相手 / 言語習得(数)	遊び相手と時間（分）				
	母（父）親	祖母（父）	兄弟姉妹	一人	テレビ
A 1～5	81 ± 45 (N=14)	80 ± 17 (N=4)	200 ± 96 (N=4)	156 ± 42 (N=11)	76 ± 31 (N=12)
B 6～10	88 ± 37 (N=19)	122 ± 40 (N=15)	99 ± 23 (N=13)	97 ± 23 (N=18)	84 ± 23 (N=16)
C 11～20	153 ± 78 (N=10)	200 ± 35 (N=3)	150 ± 52 (N=3)	83 ± 27 (N=8)	73 ± 16 (N=7)
D 20以上	136 ± 78 (N=11)	177 ± 92 (N=10)	98 ± 57 (N=4)	0	48 ± 16 (N=5)

表6

言語習得数と一人遊びの際の内容

（山間町）

遊びの内容 / 言語習得(数)	遊びのすもちゃ					絵本の内容			唱歌	哺乳ビン使用
	人形 %	縫いぐるみ %	ブロック %	自動車 %	水遊び %	動物 %	乗物 %	生活用具 %	%	%
A 1～5	0	29	29	43	50	29	43	1	29	36
B 6～10	0	32	32	68	41	23	64	3	9	23
C 11～20	10	30	20	52	20	50	40	4	10	10
D 20以上	73	73	9	9	9	9	36	5	9	9

育児に関する意識調査－母性行動について
その2. 同一地区年代別調査

1. 目的については，昭和５６年度，研究班報告書に記しているので省略する。

2. 調査方法

1）調査地区，岩手県都市近郊Ａ，2）調査対象および調査方法，前回報告に使用した２６項目を有するアスケートにより保健婦が直接面接により調査した。対象は無作意抽出による２０代,30代，４０代，５０代の各々１００名であり，調査期間は昭和５７年１月～３月までである。

3. 調査結果（紙面の都合にて主なる事項のみとする。なお図表は数点とした。）

1）結婚前後の子供に対する意識状況

①あなたは結婚する以前，子供が〔好き〕か，40代が３５％で他の年代は４５～５５％の間で差を認めなかった。〔嫌い〕は５０代の８％を最低に他の年代は１０～１５％の間にあった。②結婚したら早く子どもが欲しいと思いましたか，妻と夫では一定の傾向が見られ，〔できるだけ早く欲しい〕は各年代とも夫の願いが強く２０代の７５％を最高に最低は４０代の５２％であった。これに対し責任の重い妻は２０代，５０代が６０％，30代，４０代は４０％ほどであり，〔しばらく欲しくない〕も妻の方が夫の約２倍を示し１０％程度であった。③結婚する時，子どもを自分達で育てようと思いましたか，〔はい〕は５０代６６％，４０代６５％に対し３０代５６％，２０代４３％と漸減し，逆に〔手伝ってほしい〕は２０代１５％で最高で他は７～４％の間にあった。

2）妊娠から分娩前後までの意識状況

①結婚してから子どもが生まれるまでの期間は，２０代，３０代は１年以内も各々５６％，３５％と高率であるが４０代，５０代は２０％前後であり，１～２年以内では，２０代３１％，３０代50％，４０代４５％で早期に出産が行われていることを示している。しかし，４０代，５０代では，２年以後も多く４０代３９％，５０代５２％を示し，避妊法の教育が必ずしも十分でなかった割合には，子どもが生まれるまでの期間が長かったことを示している。②子どもが生まれるまで２年以上の期間の理由では，〔妊娠しないが〕２０代１８％，３０代５５％，４０代７２％，５０代５０％と年代順に高い数値を示していた。一方受胎調節は２０代５２％，３０代３０％で４０代，５０代は１６～９％であった。③妊娠を知ったとき，どんな気持でしたか，この質問に対しては，妻と夫では，多少異った感情反応を示している。各年代共，夫は非常に喜こぶ比率が高いが，とくに２０代６３％，３０代５３％で４０代，５０代は４５％であった。〔喜こばない〕は５０代，４０代は１２％，１１％を示し，２０代は２％であった。一方．妻は，〔うれしい〕が各年代２０％から27％を示しているが年代が若いほど数値は高くなっている。しかし〔うれしくもあるがとまどい〕を加えると各年代，９０％代となっている。〔あまりうれしくない〕は４０代，５０代，２０％ほどを示し，２０代，３０代は５～８％を示しているが，当時の世代背景，社会経済的状況を考慮しなければならない内容を有するものと思われる，④お産の状況では，〔難産および手術による〕が年代が若くなるに従い増加傾向を示しており，２０代，それぞれ１９％，８％，３０代，それぞれ20％，７％，４０代，それぞれ１８％，５％，５０代，それぞれ１５％，４％となっている。⑤お産後，次の子どもを生みたいと思いましたか，〔生みたくない〕２０代～４０代まで３０～３５％程度であり５０代では２１％であった。⑥人工流産の経験では，〔はい〕が２０代で１２％と少なかったことは当然としても３０代，４０代が５０％を超えていることに驚かされた。５０代３４％であった。

3）育児についての意識状況

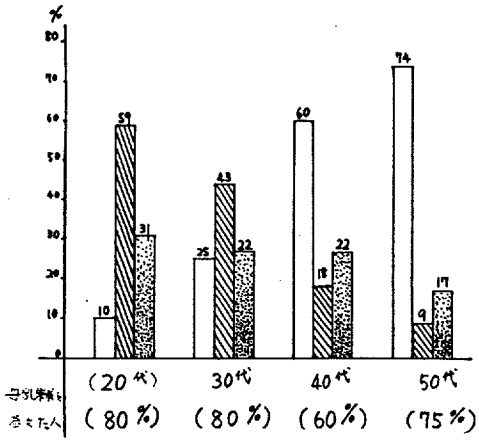
①乳児の栄養法について，出産前後の状況と，その理由を調査した。出産前母乳栄養が良いと答えた人は，２０代，３０代は８０％，４０代６０％，５０代７５％であった。その理由は２０代，３０代は，〔総ての成分が優れている〕，〔病気にかからない〕の理由をあげた者が多かったが，４０代，５０代は自然だかが６０％，７４％と高率を示した。②出産前，人工，混合と答えた人は，40代，５０代に４０％，３５％と２０代，３０代の

２０％より多かったが，その理由は，４０代，50代ではミルクを飲むと〔頭がよくなる〕〔優良児に育てるために〕が高率であり，２０代，３０代では〔美容上から〕５０％，３６％と高率を示した。③しかし，赤ちゃんを産んだ後の実際の栄養法は，共働き，内職の条件などにより希望の栄養を行うことができず，２０代，３０代，４０代では生後３カ月齢までの栄養法は母乳栄養が約５０％，６カ月齢まで母乳栄養であったものは約４０％弱であった。５０代の３カ月齢までの母乳栄養は７１％，６カ月齢までのそれは５９％であった。最近，やや母乳栄養児が増加の傾向を示している。④子供と一緒にいるとき楽しいですか，〔楽しい〕は２０代，３０代，４０代は約６０％，５０代は７０％であり，〔疲れる〕は２０代１４％，３０代１０％，４０代８％，５０代６％と年代の上昇に伴い減少傾向を示した。⑤子どもと一緒に遊びますか，〔いつも一緒〕４０代，５０代では５０％以上であったが，２０代，３０代は３５％前後であった。〔あまり遊ばない〕３０代が１５％と高く，次いで２０代，４０代の１０％，５０代は５％であった。⑥夫と一緒に外出するとき子どもはどうするか，〔いつも子どもと一緒〕は２０代６２％，３０代７５％，４０代８４％，50代89％で，とくに５０代では夫と一緒の外出などできなかったと述べている。一方，〔子どもを一人にして〕と答えた人は，２０代２３％，３０代１５％のみで４０代，５０代は零であった。〔見てくれる人にたのんでは〕１０～１５％で若い年代がやや高い傾向であった。⑦子どもの食事はどうしているか，加工食品は２０代２６％，３０代１５％と高く，さらに既製品，インスタントも２０代１９％，３０代１１％で，〔すべて自分で作る〕〔大部分自分で作る〕が４０代，５０代に比較して著明に少なかった。⑧母親は家庭にいて育児に専念すべきか，〔そう思う〕が２０代５２％，30代６５％，４０代８４％，５０代７９％と年代の増すに従い高率となっている。〔そう思うが勤めのためにできない〕２０代３６％，３０代２７％，４０代，５０代は１５％程度であった。〔育てる人は誰でもよい〕２０代１２％，３０代８％に認められた。⑨子どもを生まなければよかったと後悔したことがありましたか，〔時々ある〕は年代により，その理由に差異があるが，２０代２７％，次いで５０代２５％，４０代１５％，３０代は８％であった。

以上，都市近郊Ａにおいて年代的に育児に対する意識調査を行ったが，概括的に見ると若い年代層においては，育児知識も豊富であるが自己洞察力に乏しく自己中心的で努力に欠け，やや未熟性も推察され，母親としての自覚に乏しく不安定であり，他人に対する甘えと依存性が強いように感ぜられた。

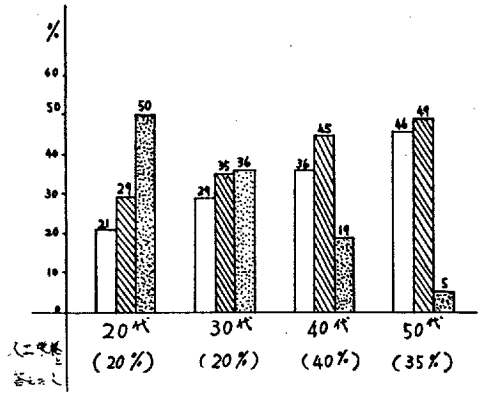
乳児栄養法

1. 生産前、母乳と答えた人の理由



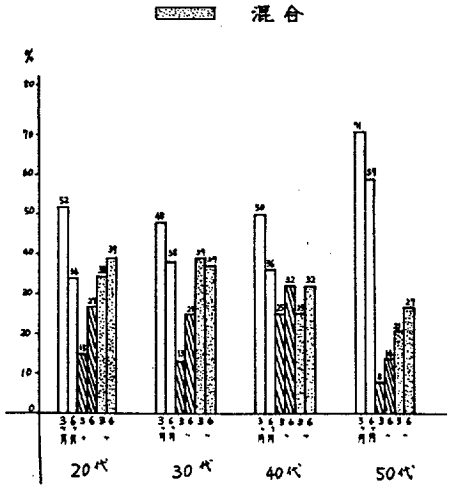
乳児栄養法

2. 出産前に 人工・混合と答えた人の理由

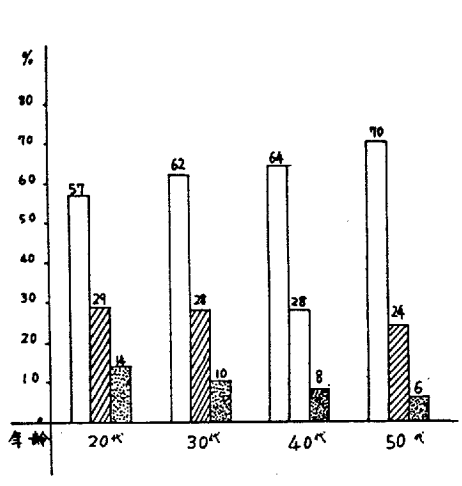


乳児栄養法

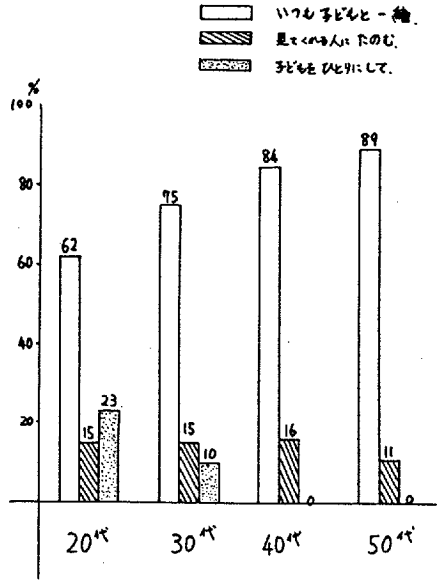
3. 実際の栄養法は



あなたは子どもと一緒にいるとき楽しいですか

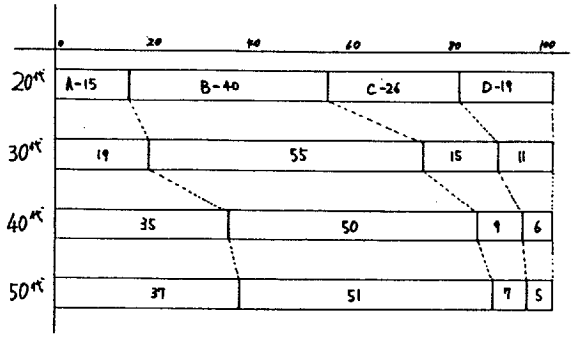


夫と一緒に外出するとき子どもはどうするか

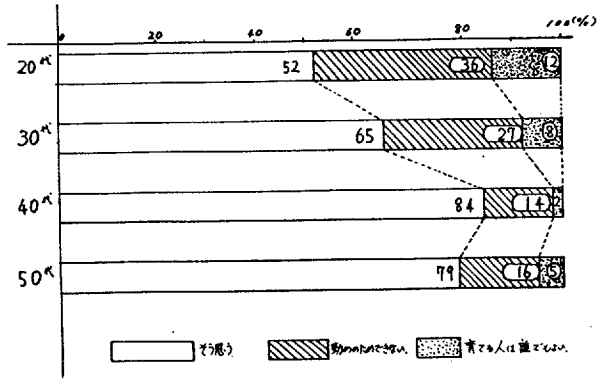


子どもの食事はどうしているか

A すべて手作り. B 大部分手作り. C 加工食品. D 乳製品 インスタント.



母親は家庭に居て育児に専念すべきですか。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的

上記のような背景から社会変貌と育児との関係の一端を知る目的のため,1歳6ヵ月児を対象に,その時点における言語習得と広義の母子相互作用を,主として遊び相手との関連の中で調査したので予報として報告する。1.目的については,昭和56年度,研究班報告書に記しているので省略する。2.調査方法 1)調査地区,岩手県都市近郊A,2)調査対象および調査方法,前回報告に使用した26項目を有するアスケートにより保健婦が直接面接により調査した。対象は無作意抽出による20代,30代,40代,50代の各々100名であり,調査期間は昭和57年1月～3月までである。